

前書き

大蛇と化し・・・安珍を鐘もろとも焼き殺してしまった少女・・・清姫・・・

古くから、歌舞伎や能、浄瑠璃などでも上演される・・・熊野の伝説の中でもっとも有名なお話しと言ってよいでしょう。お話しに登場する清姫は美しいですが・・・淫乱で、恐ろしい女というイメージがあります。

しかし、私が、今からお話しする清姫のイメージは、少し違っています。

それは、ただの私の創作ではなく・・・各所に伝わる安珍と清姫のいろいろな伝説をもとにしてまとめたものです。

冒頭に登場する・・・清流の中を、妖精のように美しい肢体を人目にさらしながら遊んでいる少女は、清姫の生地、真砂の伝承にもとづいています。

清姫は、数え十三歳（満年齢なら十一〜二歳）であったと伝えられています。清姫が男の眼を意識して・・・裸で泳いでいた・・・とは、私には思えません。

おそらく、この時・・・清姫は、自分の美しさにも気がついていない・・・純真無垢で無邪気な子供だったのでしょう。

この物語は、そんな幼い清姫の拙い恋と・・・子供である清姫を本気で愛してしまった安珍の・・・お互いに相手を想うばかりに生じてしまった・・・愛の悲劇です。

